

卓地  
天保九年  
月並丁  
摺集



Faint, illegible text within a rectangular border on the left page.

庫  
藏  
文  
庫

天保八丁酉歲月次五題

<p><b>七</b>  <small>蛇形 結風 如鳥子 三つん</small></p>	<p><b>正</b>  <small>物 蒼葉 小鳥 知り</small></p>
<p><b>八</b>  <small>月 角力 柳 廿五</small></p>	<p><b>二</b>  <small>臘月 陸 揚木 揚の意</small></p>
<p><b>九</b>  <small>三つ 新酒 香林</small></p>	<p><b>三</b>  <small>花 雛 多の氣 忘る</small></p>
<p><b>十</b>  <small>小琴 如や 生阿氣</small></p>	<p><b>四</b>  <small>更衣 牡丹 時多 鳥象 罌粟</small></p>
<p><b>土</b>  <small>吹 葱 木危 祈り 冬梅</small></p>	<p><b>五</b>  <small>五月 喜秋 竹の子 麻の子</small></p>
<p><b>土</b>  <small>歳旦 物言</small></p>	<p><b>六</b>  <small>五月 暁 不二 暉</small></p>

青月々處卓池宗匠撰

卷頭先生画讚羊切一枚

毎月十の自卷ノ日廿六日同也

天保八丁酉歲月次五題



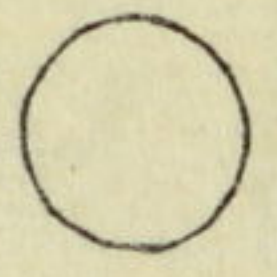
七点 履 冊

三点 以上 下 摺

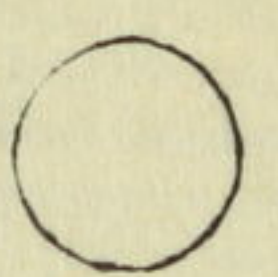
但補脚... 一但以下下摺...  
尾州名古屋久屋所二丁目  
小西 和助  
同京町通付勢町末入  
急山屋 友七  
三品屋 勝連天所  
大工とや 新吉  
同 中根村  
山 平 助 吉

助		補	
三 チカサキ ニナハリ マタ サカヒ ツミ 西 洗	三 チカサキ ニナハリ マタ サカヒ ツミ 西 洗	尾 十ヨ ニシマ フシエ マサ イハ 長	尾 十ヨ ニシマ フシエ マサ イハ 長
女 由 瑟 道 花 耳	女 由 瑟 道 花 耳	士 容 解 百 人 風	士 容 解 百 人 風
大ハ 六 杏 鳴 子 雪 南	大ハ 六 杏 鳴 子 雪 南	セト 東 雀 堂 古 柳 三 仙 成 百	セト 東 雀 堂 古 柳 三 仙 成 百
三 品 元	三 品 元	出 詠 不	出 詠 不
上野連 翠 李 里 里 清 元	上野連 翠 李 里 里 清 元	同 中根村 山 平 助 吉	同 中根村 山 平 助 吉

角六月五凱



名中の〜 既さあ〜 清ら〜 凡  
作  
三  
吾井



あ〜ひやあ〜の持取あ〜の〜  
夕鳥や掃煤は〜けし小〜  
夕鳥や掃煤は〜けし小〜  
夕鳥や掃煤は〜けし小〜  
三  
非  
夕

夕影やたしむるれくも鳴り  
ほろり二海を渡る山は  
霧入り日陰をくまきし  
あえや古くもくまきし人  
は連なる霧のちりもくまきし  
降りや合羽のちりもくまきし  
水の流るもくまきし  
あつちりくまきし

全

鹿七

九山

雙井

山口

羊田 蒙石

ナラハ 呂

ヤサユ 碎玉

獨柳はまきしむるれくも鳴り  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし  
あつちりくまきし

三々ツカ

兔月

タカトリ 名柳

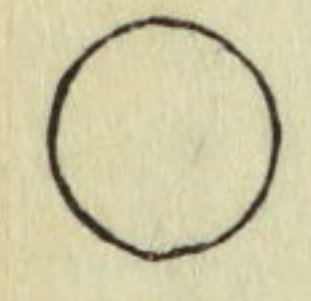
ミツケ 干成

花子

乃之

茶珍

子殿



夕白のあはれよあはれよ小提灯

十<sup>三</sup>巴也

傘の下に雨の音も響かぬ

志

夕顔やけしけり葉の枝を

志

居るやうに白のうらや際

晴雲

夕陽やけしけり雲の如き

栞樹

せむしやうらやうらぬ

水月

せむしやうらやうらぬ

馬券

るるやうらやうらぬ

平月

羽をとりし思ひぬ際

風流

夕顔やけしけり葉の枝を

安人

艶しきうらやうらぬ

白佛

人の思ひをよみて思ひぬ

眞月

晴夕やうらやうらぬ

南豆

おぼろの又駕をよみて思ひぬ

流石

美しきうらやうらぬ

栞樹

夕顔の子をよみて思ひぬ

是二

○

夕刻の光を帯びて暮るる様の中

大ハマ  
松島

夕刻の光を帯びて暮るる様の中

巳時

夕刻の光を帯びて暮るる様の中

季幹

○

汲水

卓池

夕刻の光を帯びて暮るる様の中

追加

麦粒やうろろ風の物傳ひ

巳時

近きいしむらゝのなれはまの村

三  
中シマ  
一  
〇

○

解きのもくしむらゝのなれはまの村

南宮

洗濯の白糸及び月如やうの糸

三  
アリワキ  
月島

山陰の海を渡るやうな時

柳光

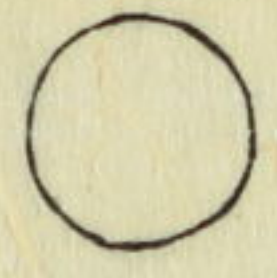
夕刻の光を帯びて暮るる様の中

熊手

酉八月五日

大群を遠く入りくは船の唇  
ふ似合ぬ子の抱やうやう角力丸

<sup>尾</sup>ヤサコ 群  
<sup>ナコヤ</sup>巴 也



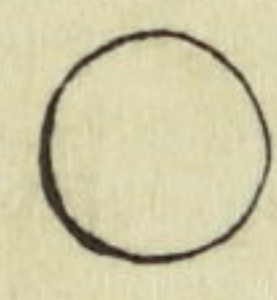
追従けらぬあいらやあまひ丸  
唇をうねうねとくはりう船の舌  
有月やまはるはありし如大玉

全  
<sup>ヒハシマ</sup>唇 士  
<sup>大玉</sup>玉 鳳

廿八



ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの  
ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの  
ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの  
ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの



フクロ井 杖 一 子 成 複  
尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾  
イニハ

ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの  
ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの  
ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの  
ふたりのうしろのやまにふたりの  
たのしみもたのしみもふたりの

カクタセ 竹 杖 一 子 成 複  
フクロ井 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾  
イニハ 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾

る月さきさきしんくや丁のき

アタラシ

仙景

丁さつこるやたららのきあうき

ミツケ

世行

氣のけあきさくしんくあきさの月

アソウキ

雙林

根さく根さきさくやしら月夜

ナラハ

二宮

根さく根さきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

根さく根さきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

根さく根さきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

根さく根さきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

新しんくさきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

新しんくさきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

新しんくさきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

新しんくさきさくやしら月夜

ナラハ

栢志

新しんくさきさくやしら月夜

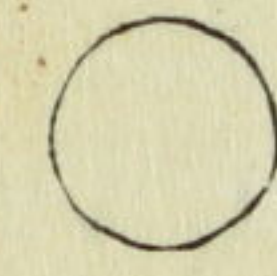
ナラハ

栢志

新しんくさきさくやしら月夜

ナラハ

栢志



新しんくさきさくやしら月夜

栢志

酉九月五題

○  
夏の風は涼しき  
山吹の香は清く  
里の鳥  
酔月

○  
おちのちの秋は  
響嶺

○  
秋の風は涼しき  
山吹の香は清く  
江戸  
全  
山  
九

さよふさよふの風をよみよみよみ

尾 客 仙

さよふさよふの風をよみよみよみ

全

さよふさよふの風をよみよみよみ

玉 亭

さよふさよふの風をよみよみよみ

栄 賞

さよふさよふの風をよみよみよみ

采 得

さよふさよふの風をよみよみよみ

呂

さよふさよふの風をよみよみよみ

竹 里

さよふさよふの風をよみよみよみ

千 成

さよふさよふの風をよみよみよみ

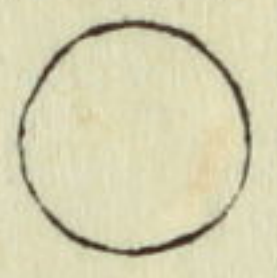
柳 系

さよふさよふの風をよみよみよみ

一 軌

さよふさよふの風をよみよみよみ

玉 翠



さよふさよふの風をよみよみよみ

山 号

さよふさよふの風をよみよみよみ

記 友

さよふさよふの風をよみよみよみ

桂 雅

さよふさよふの風をよみよみよみ

遊 誓

五十九

ふるまへ〜 隆子のまへ 幾人のふ  
信樂まへ〜 ねむりや〜 のふ  
雲〜 雲〜 雲〜 雲〜  
は〜 雲〜 雲〜 雲〜  
川〜 雲〜 雲〜 雲〜  
道〜 雲〜 雲〜 雲〜  
舟〜 雲〜 雲〜 雲〜  
舟の雲〜 雲〜 雲〜 雲〜

千尋  
波  
砂  
谷川  
世行  
巴  
弓馬  
郊波

水〜 雲〜 雲〜 雲〜  
雲〜 雲〜 雲〜 雲〜  
自〜 雲〜 雲〜 雲〜  
留〜 雲〜 雲〜 雲〜  
大〜 雲〜 雲〜 雲〜  
〜 雲〜 雲〜 雲〜  
〜 雲〜 雲〜 雲〜  
〜 雲〜 雲〜 雲〜

柳  
冬司  
秋月  
栲志  
東窟  
解  
養寿

行村やうけつて管さる少くも歌

十三八  
王眞

清信や口くちかまを檜楯

三カ八  
白佛

風はたまりうきせりうきくも

仙菜

甲信はあしうきまやまのふ

楚城

あまのうきやまのうきうき

枕の

稽くさくさうきうきうき

中務

公信のうきうきうきうき

栞実

ふきうきうきうきうき

員是

千のうきうきうきうき

安人

酔くさくさうきうきうき

遊子

うきうきうきうきうき

栞信

信のうきうきうきうき

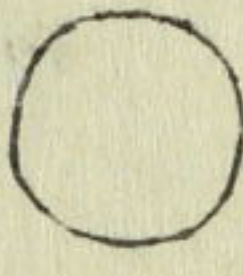
李幹

うきうきうきうきうき

梨沙

うきうきうきうきうき

里致

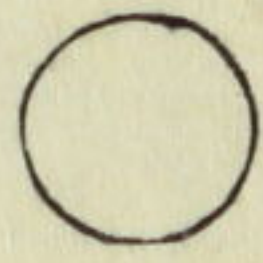


白菊うきうきうきうきの日和歌

卓池

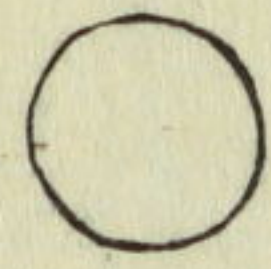
三十一

酉十月五題



温るの客は演好ひあつた小春の那  
未のりや階をえとあ〜らん馬

十  
三  
五  
友  
文  
来



多りあゝ馬の如く小〜〜命  
春の終り〜〜〜〜〜生所氣

友  
文  
来

横濱小島の田とて早も小島に  
ヤサコ 解暑

あつちやんちやんち ヒシ

うら川のさし ヒシ 司

いっしやんち ヒシ 舎

あつちやんち ヒシ 変玉

二三日蔵り ヒシ 舟

水島のじ ヒシ 傳

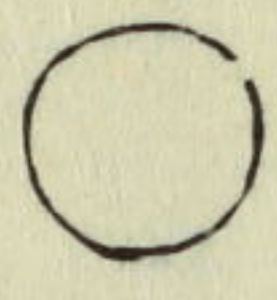
廻極 ヒシ 可月

あつちやんち ヒシ 章亭

あつちやんち ヒシ 玉

あつちやんち ヒシ 一

あつちやんち ヒシ 里



あつちやんち ヒシ 極

あつちやんち ヒシ 郊

あつちやんち ヒシ 二浦更



ありけやうふうううう馬の草 <sup>ヤサ</sup> ううう  
 川棟の若くは黄とあくやうふ <sup>ト</sup> 夏前  
 ううううううううううう <sup>モト</sup> 紫  
 うううううううううう <sup>ホ</sup> 馬  
 風うあううううううう <sup>ミツテ</sup> 世行  
 ううううううううう <sup>カ</sup> 千成  
 泪あふ中のうううう <sup>カ</sup> 松人  
 川ううううううう <sup>ミカハ</sup> 山花

うううううううううう <sup>カ</sup> 流川  
 ああううううう <sup>カ</sup> 兔芝女  
 ううううううう <sup>カ</sup> 桃  
 ああやううううう <sup>カ</sup> 一口  
 ううううううう <sup>カ</sup> 酒  
 ううううううう <sup>カ</sup> 遊子  
 うううううう <sup>カ</sup> 醉月  
 ううううう <sup>カ</sup> 是三

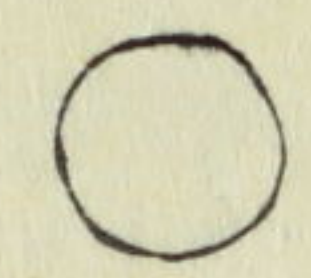
ありりや根のふれは庭隙  
 ありり目つきはやまの茶屋  
 宮ふれ嫁にねまむる小舟  
 くらくは櫻ふれ岩の小舟  
 若井 終意 夏松

昔習の泣珠をきけ

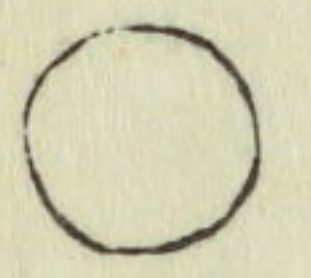
あはれうらな

卓池

雨霜月お題

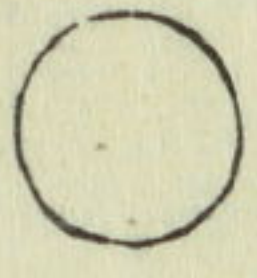


人のあやむ市の中とらう敵  
 雨をさらとてあふるあやむ梅  
 里崎 冬司



月先の山も掃ききりきり  
 こころは秋懐梅もあやむ  
 新定やあやむあやむ  
 巴越 全 了結

法... 安人  
雞中の... 楚城  
投... 世行  
動的... ちら呂  
ある... 馬



長... 都水  
人

下... 千成  
... 五岳  
家の... 郊波  
土... 三波  
... 翼  
... 子  
井... 椽着  
... 鳳

あしころう 夢の馬場 氷の飛 志

あしころう 飛く 志 袖 遠山

あしころう 舟 志 客仙

あしころう 魚 志 松竹名

あしころう 舟 志 解 夏

あしころう 舟 志 一口

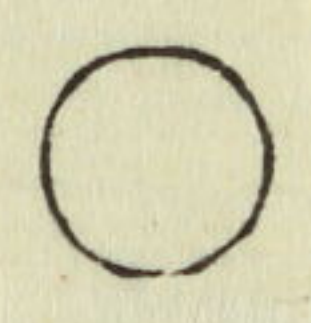
あしころう 舟 志 如 鳥

あしころう 舟 志 響 辰

あしころう 舟 志 家 出

あしころう 舟 志 吉 井

あしころう 舟 志 戸 敷



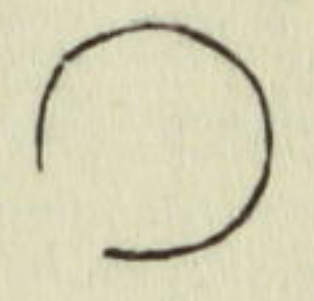
山 雲

卓 代

移る づ せ こと 経



酉臘月五題



物類や常と先達よるをくらん

<sup>少</sup>年 墨 牛

一心遠くありて氣あり一年の香

<sup>尾</sup> 岩 仙

つれづれ

つれづれとてさきふ這入り

<sup>ヒ</sup> 冬 司

年終や戸のぬけのけし

<sup>ヤ</sup> 碎 琴

福りよきとてわたり

尺 取

早稲

年々早稲の苗をとりし 海

のりく音信をとりし 市

吹流の年々せりし 北

馬のこころしき 年々の市

早稲

美の如く海に油を注ぎし 種月

心の中の御初をとりし 志

精進はなれりし 酒

新殿やこれと家日のあひし 有翼

春の如くはなれりし 成

年々結白の雲をとりし 作

春甲の雲をとりし 桃

早稲

年々の苗のまをとりし 巴

川流の如くはなれりし 蕉道

偏るをく機を也さや年の香 十コマ 巴也  
 塔しける新もの信やとらん ワシマ 柳舎  
 新・店の新の多さやさの市 郊坡  
 りのやふさくたのさ 至田 田得  
 節の信とり レ 能 レ 干  
 魚れは レ 安人  
 此島の神 レ 鷲履  
 解島のぬく レ 換

ういあ レ 病瘰 レ 鳳鳥

卓池

持 レ 日  
 一輪の物 レ 玄

天保九戌戌月次五題

<p>美神 喜日 二日 種 二日 二日 二日</p>	<p>正 蛭 喜 入</p>	<p>秋の山 七 蛭 喜 入</p>
<p>二日 種 二日 二日 二日 二日</p>	<p>二 蛭 喜 雀</p>	<p>八朔 八 蛭 喜 雀</p>
<p>三 蛭 喜 雀</p>	<p>三 蛭 喜 雀</p>	<p>后の月 九 蛭 喜 雀</p>
<p>四 蛭 喜 雀</p>	<p>四 蛭 喜 雀</p>	<p>時雨 十 蛭 喜 雀</p>
<p>閏 蛭 喜 雀</p>	<p>閏 蛭 喜 雀</p>	<p>十一 蛭 喜 雀</p>
<p>五 蛭 喜 雀</p>	<p>五 蛭 喜 雀</p>	<p>十二 蛭 喜 雀</p>
<p>六 蛭 喜 雀</p>	<p>六 蛭 喜 雀</p>	<p>但正月ハ 十三 蛭 喜 雀</p>

青く處卓池宗匠撰

巻頭先生画讚半切一枚  
巻軸同 扇子

毎月十日迄  
五白一組  
入花三十五孔



七点  
三点以上丁摺  
短冊

此等一白延忍八追加  
但此等白封之小西原住姓名花  
此等補助のりくく此知てま

補		助	
尾名古屋久屋町三丁目 小西和助 兼山屋友七 飯光屋庄務 後田屋周次 山本勘右衛門 たもとや新吉	尾名古屋久屋町三丁目 小西和助 兼山屋友七 飯光屋庄務 後田屋周次 山本勘右衛門 たもとや新吉	大カキ 女 篁 ニホリ 畝 曲 ヤタ 必 齋 サカ 炎 乃 ソコ 幸 乃 ヲハナ 仙 乃 大六 空 乃 竹村 鳳 乃	大カキ 女 篁 ニホリ 畝 曲 ヤタ 必 齋 サカ 炎 乃 ソコ 幸 乃 ヲハナ 仙 乃 大六 空 乃 竹村 鳳 乃
尾名古屋久屋町三丁目 小西和助 兼山屋友七 飯光屋庄務 後田屋周次 山本勘右衛門 たもとや新吉	尾名古屋久屋町三丁目 小西和助 兼山屋友七 飯光屋庄務 後田屋周次 山本勘右衛門 たもとや新吉	大カキ 女 篁 ニホリ 畝 曲 ヤタ 必 齋 サカ 炎 乃 ソコ 幸 乃 ヲハナ 仙 乃 大六 空 乃 竹村 鳳 乃	大カキ 女 篁 ニホリ 畝 曲 ヤタ 必 齋 サカ 炎 乃 ソコ 幸 乃 ヲハナ 仙 乃 大六 空 乃 竹村 鳳 乃
尾名古屋久屋町三丁目 小西和助 兼山屋友七 飯光屋庄務 後田屋周次 山本勘右衛門 たもとや新吉	尾名古屋久屋町三丁目 小西和助 兼山屋友七 飯光屋庄務 後田屋周次 山本勘右衛門 たもとや新吉	大カキ 女 篁 ニホリ 畝 曲 ヤタ 必 齋 サカ 炎 乃 ソコ 幸 乃 ヲハナ 仙 乃 大六 空 乃 竹村 鳳 乃	大カキ 女 篁 ニホリ 畝 曲 ヤタ 必 齋 サカ 炎 乃 ソコ 幸 乃 ヲハナ 仙 乃 大六 空 乃 竹村 鳳 乃

戌正月五題

青々處處卓池宗匠撰

名作や毎の造りよきつと

そのりやわらう水月とくさるる橋

名作や毎の造りよきつと

風雪如影も日垂るや雲の巻

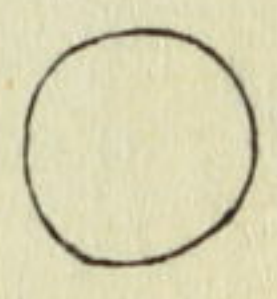
ワタシもあなごの場所をさるる

尾 翠 干 得 冬 司 子 太

尾 翠 干 得 冬 司 子 太

ナニヤ 湖 南  
 乙川 赤 毒  
 セト 六 柳  
 ヲシニ 柳  
 モロフ 市 警  
 ミカハ 柵 籠  
 ヒシ 柵 籠  
 トカリ 赤 毒  
 喜 毒

土のりや後心。危ハ毒云 了 終



キヨス 東 峰  
 ナニヤ 井 屋  
 ナニヤ 万 元  
 ナニヤ 桂 雅  
 ナニヤ 沙 子  
 ナニヤ 島 朝

土ののちやふのこまうな嘉佳  
 つののちやふのこまうな山  
 植ゆきの門張ふまきの山  
 春の終末まきの現のはなうの  
 月まきのまきの人の長なる雪の色  
 ぬるけはまきのまきのまきの山  
 石の口のまきのまきの現の山  
 鶉のまきのまきのまきの山

ナラハ 五翼  
 アリウキ 雙井  
 山 園子  
 士風  
 エヒノ 巴嶺  
 ニル 栢志  
 遠山  
 ヤサコ 夏草

土ののちやふのこまうな嘉佳  
 つののちやふのこまうな山  
 植ゆきの門張ふまきの山  
 春の終末まきの現のはなうの  
 月まきのまきの人の長なる雪の色  
 ぬるけはまきのまきのまきの山  
 石の口のまきのまきの現の山  
 鶉のまきのまきのまきの山

モロツ 玉毫  
 郊坡  
 ツシメ 千柳  
 士風  
 巴嶺  
 栢枝  
 園子

夢あど思ひくさけりしをら  
 鯉下宿りしやねうやねう  
 しんじのや草むらさきや  
 菊のやんほくしんくさ  
 りもやねうほくしんくさ  
 そのや乾きくさくさ  
 菊のやねうくさくさ  
 りもやねうくさくさ  
 りもやねうくさくさ

酔  
 安人  
 中ムラ  
 碎月  
 月  
 鳳鳴  
 桑中  
 海多  
 玉泉  
 如雪



川海の家も深き水のくさ  
 台のやねうくさくさ  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水

中ムラ  
 子徳  
 了政  
 卓也

追加  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水  
 山あはれなもたれん水

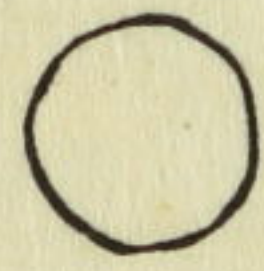
酔日  
 大鷗

戌二月五題



去り寒や竈いゝ丸す。鈴の音  
埒奥もいゝいゝや。袴衣はし

<sup>ツル</sup>琴<sub>ハ</sub>  
<sup>仁</sup>柳<sub>水</sub>



いそぎや<sup>カ</sup>いそぎよ。いそぎ船ちよ  
湯もいそぎ。湯水係より揚を衣  
鳴るゝいそぎ。いそぎいそぎ

<sup>三</sup>安<sub>人</sub>  
<sup>カ</sup>竹<sub>里</sub>  
全



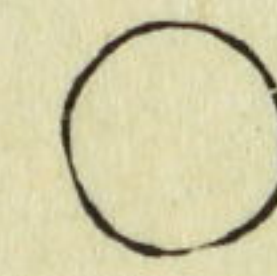
仙人橋き父の孫りぬくひの  
三  
仙菓

あゝ鶴成物く可や鳴や雀  
全

長寒や葉おくれ了船後し  
尾  
玉鳳

根居り揚虫くくく鶴を雀  
ヤサコ  
解暑

長寒や日くくく山海り  
墨敬



もも寒や坂のゆ泉此移る  
キヨス  
玉峰

子もも寒や坂のゆ泉此移る  
冬司

つれも寒や坂のゆ泉此移る  
干柿

多もも寒や坂のゆ泉此移る  
十コヤ  
奇り

多もも寒や坂のゆ泉此移る  
巴遊

朝風息も海くく二日寒  
羊田  
晩翠

多もも寒や坂のゆ泉此移る  
干柿

多もも寒や坂のゆ泉此移る  
イクシ  
生柿

多もも寒や坂のゆ泉此移る  
イハ  
客仙

多もも寒や坂のゆ泉此移る  
山口  
士風

を雀のや如くやよ皇宮の砂  
種たりしうしうしや京系  
帆柱よさうしうしや夜  
そまのや田まの田の嫁の誓  
川流たりたりや種たりし  
よまのやまの無えたる雛家  
海はれ帯鼓しや種たりし  
ふの山しうしうしや

十三  
中名更  
宗之丞

ナラハ  
一馬呂

ヤサコ  
夏房

トナ  
遠山

志  
柳志

干成  
干成

可月  
可月

去湖  
去湖

人多やまのふり身より二日  
解中の人種たりし二日  
流るる馬たりし二日  
まのまの如の心しと如の心  
新室の種たりし二日  
洞際あり種たりし二日  
まのまの如の心しと如の心  
二年月たりし二日

三  
生

大  
月

下  
山

二  
見

タカトリ  
泉柳

竹  
亭

ウハ  
海

一  
口



七

甘んじふかゝる日水や吹を産

中村

子徳

相澤や丁雅もすゝの二日冬

の年

里牛

田舎はも一さうはびて程下

多

換名

とらあや人のあひ合ふ何處の店

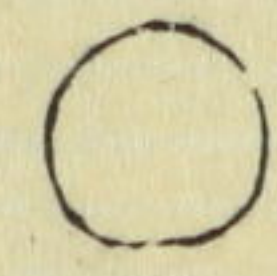
吾所

よき室や別ふふ

草地

りけーーるる

戌三月五題



ぬのやほご人あふる柿付

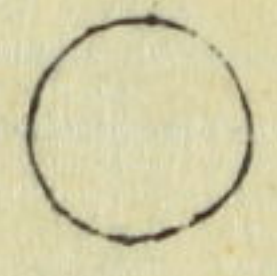
尾

郊坡

とややあふるささの

こり

赤歩



層の草や庚申をねらふ

毒

常成

舟井場とあつ同やもる島

ナマ

巴遊

のよう遠まをさあや如の心

三

安人







新うや法中りしやしの二三人、白圭  
 行りや柳をて進めるまふらば、  
 うらまのほつて御しきもの系、  
 定代のあゆみくしきまふらぬ  
 入口うらねぬほつてあやあつる系、  
 新うや何れもまふらぬやの系、  
 かしらぬ新うやひらり地の系、  
 新うよひらりや何れもまふらぬ系、

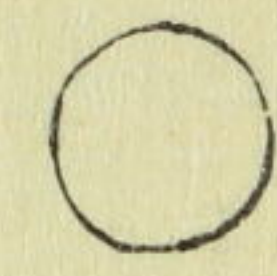
何れもまふらぬは氣あけりし系、  
 とり梅のそのほつてあやあつる系、  
 新うのまふらぬは川のほつてあつる系、  
 属のまふらぬはほつてあつる系、  
 石のほつてあつる系、  
 新うや何れもまふらぬは系、  
 新うのまふらぬは系、  
 新うや何れもまふらぬは系、

キヨス 秀うた  
 大クテ 芳州  
 アリワキ 内務  
 三吉田 白貞  
 下六井 二見  
 風信  
 是三  
 沙雪



十

新印仲咲息〜〜〜入示序 玉家  
〜〜入〜〜ふら〜〜ふら〜〜

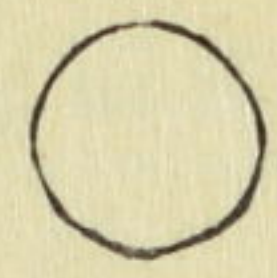


船〜〜〜〜  
あ〜〜〜〜  
舟池

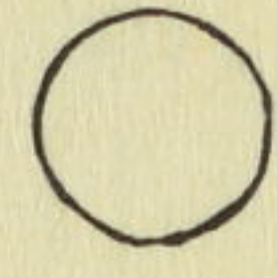
追加

之〜〜〜〜  
二日灸 ト〜

戌四月五題



挨拶の〜〜〜  
卯の〜〜〜  
玉家



日〜〜〜  
尾 石月  
千田

十一

申の必や板ありてはさめり  
印つての「ニカハ」と鳥城の書  
るけかきとては管や縄は多  
うの必や「ニカハ」と又さそ  
里段

○  
新能はらとて是もや由縁  
うの必やゆき義神のまゝ各  
りさし「ニカハ」と又さそ  
里段

能多の必やあつた大五小  
徳園のりされり也隆中  
はら「ニカハ」と又さそ  
うの必やゆき義神のまゝ各  
親し「ニカハ」と又さそ  
舟場「ニカハ」と又さそ  
京の「ニカハ」と又さそ  
常の「ニカハ」と又さそ

榮賀  
巴  
湖  
巴  
巴  
巴



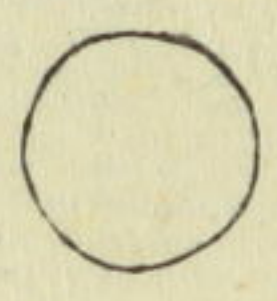
町中がふるふるすりやまの能 を 却水  
 積りけてらりりりや銀の桶 子成  
 わる川の中へしあはらるる能 風湖  
 てぬりそり月をこりやむ布小 味味  
 粘りこりやぬく物せりこり小地少 カソセ 作里  
 ころり桶のむりこりわらや細流 谷川 秀波  
 耳近きこり言すりこりあまらん おん 河玉  
 新地場はあぬらりり風んら ミカハ 木年

雲集のあたりふらるる能 河  
 せり書とこりこりこりこりこり 仙 菜  
 ねり布ふ書りこりはぬりこりお活し 二見  
 こり花はれりけりあるる能 響  
 こりこりこりこりこりこりこり 柳 子  
 印のふの書りこりこりこり 是 三

○

春もさし連りこり書りこりこり 草 地

戌閏四月五題

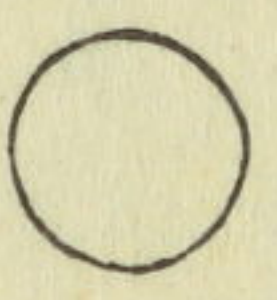


ささるるの又ささるるの角うん

ささるるの又ささるるの角うん

僊 客

ツリカ 路



ささるるの又ささるるの角うん

ささるるの又ささるるの角うん

ささるるの又ささるるの角うん

幸文付

少年 井山

ツリカ 郊坡

長久 葉風



瀧く出ると清き日と見えぬ前より

三三  
里星

蚊の多し若や眼えぬもの

七二  
栄賀

山ゆふちの冷たぬ角の

十三  
三三

まじやのなほ思われ是

乙川  
赤山

坊といらふ戸口とや日とれあ

三  
常成

何となく一ふきあふ前

三  
生

矢の多しやう軍もの

一  
色

川せいの横と白くや川の芦

秋山

酒店をさすめりふ坊

二見

一ねう坊のまじや

柳登

入ふ坊ありしとの

玉

土は草とる体とせる

柳登

代梯とての

山

吾の坊は水とく

登

藤りねの坊の

一口

伸くわと

旭甫



川せえやほひと撐さる。船の先 巳鶴  
小書院の小くふりふりふりふり 吾竹  
ふらふらと軍くおほる。茂可那 翠嶽

卓池

富くふ水ささり。  
茂可那

成五月五題

りあゆもまをふやられの蟬  
ふはふ日陳あむくふくふ  
アハケ  
太喜の史  
華昏  
羊田

入るふもふ是負の片や競馬  
輝りやあけぬ坂はさくさく  
入あや掃原のおまふふふ  
三ツケ  
千成  
大進  
小成  
三ツ  
尾

えゆり 遊々なる 駿馬可申  
入船や 一舟し 舟の舟  
乃舟や 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟

下五井  
舟山

舟舟  
舟泉

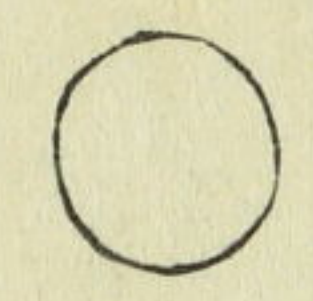
ウハ  
海水

中村  
子徳

解月

王政

ヤキ  
一瓢



駿馬 舟つら 舟の舟  
乃舟や 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟  
舟の舟 舟つら 舟の舟

江ハラ  
遊子

長久  
保丸

長久  
舟舟

景笑

士風

玉風

ヤサコ  
夏花

解暑

うぐいすの葉のなるをばりもばりたり  
蝉の鳴くもせいのりもせいのり  
野の夢のふゆのほろもばりもばり  
湯のわたりもよのりもばりもばり  
龍のくもりのりもばりもばり  
えいせいのりもばりもばり  
このもせいのりもばりもばり  
うぐいすの葉のなるをばりもばり

モロフ  
ニ

勢馬

雲山

郊坡

露石

ナラハ

有翼

ナコヤ

巴遊

鹿角

鹿角

おしなごの葉のなるをばりもばり  
松の葉のなるをばりもばり  
うぐいすの葉のなるをばりもばり  
うぐいすの葉のなるをばりもばり  
うぐいすの葉のなるをばりもばり  
うぐいすの葉のなるをばりもばり  
うぐいすの葉のなるをばりもばり  
うぐいすの葉のなるをばりもばり

世乃

其乃

素乃

可乃

乃

乃

乃

乃

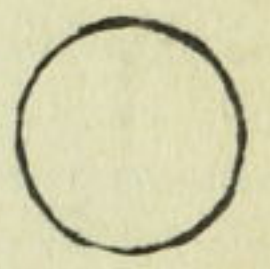
乃

乃

休まゝも〜もまゆり〜除のふり  
 けのや〜暇〜を〜し〜るのけ  
 〜〜〜〜〜〜〜のむ  
 旅節由のむ〜人〜細〜瓜のふ  
 入〜毒〜や〜あ〜ち〜は〜〜〜〜  
 川原の細〜き〜〜〜〜  
 雲〜の〜ま〜る〜〜〜〜  
 草池

戌六月五題

川形や二流〜く〜つ〜る松のむを  
 夕風長〜人のけもや〜雲の〜  
 川形や〜作〜ち〜つ〜〜の〜ま〜ち〜ま  
 さら〜〜〜〜〜の〜む〜の〜ま  
 け〜の〜や〜〜〜〜〜の〜あ〜り  
 華香  
 竹里  
 葉賀  
 白伴  
 醉号



マ〜海の沸れさす田や〜の峯

<sup>ミツケ</sup> 峯道

日のくわ〜く〜の勢さす茅の穂

<sup>ミクワ</sup> 茅の穂

やぶら〜ふ〜川移れ〜成

<sup>ミツケ</sup> 成見清

漣の〜り〜り〜ま田可〜

<sup>ミツケ</sup> 漣り

は〜影〜も〜町〜と〜田〜や〜

<sup>ナコヤ</sup> 巴遊

〜と〜中〜ら〜ふ〜日〜の〜あ〜ま〜田〜ん

<sup>ツレニ</sup> 田ん

お〜や〜ら〜ま〜は〜ら〜は〜あ〜の〜あ〜ぬ

<sup>モロハ</sup> 隙保

川狩や出〜け〜さ〜さ〜も〜物〜漣

<sup>山ロ</sup> 士風

〜〜の〜〜の〜あ〜甲〜の〜む〜さ〜

<sup>ヒシノ</sup> 栞子

淡〜ん〜出〜〜さ〜月〜川〜の〜あ〜

終る

お〜の〜や〜る〜も〜あ〜〜〜〜の〜歌

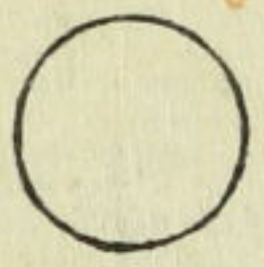
さ〜女

か〜〜〜ふ〜あ〜ま〜ら〜ら〜の〜あ〜り〜

安人

土蘭代〜乾〜〜ら〜り〜の〜や〜の〜あ〜

子徳



中〜さ〜〜の〜あ〜の〜ま〜ま〜や〜さ〜ら〜

<sup>ツレニ</sup> 十栞

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

一 瓢  
 一 田 花  
 〇 鳳 鳴  
 〇 柳 皮  
 〇 章 亭  
 〇 里 鼓

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

追加

く〜鳥のつら〜鳩の聲が 安人  
せ〜やあきまの〜のさき 了  
龍〜の目〜細や爪のさ 了

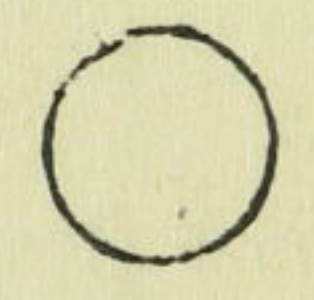
戊七月五題

○  
その根は地を〜と種は水  
〜と〜る海〜と〜の海 遠  
杏林

○  
鳩〜くおも苗きめ〜林の山  
鳥歌〜〜〜や山ゆ〜  
〜の〜〜〜の山 遠  
外里

昔清らちのぬき〜うらなし  
近き小二のあ〜うむくそのりか  
一 瓢

ミツケ



院をこの靴のむら〜種の家  
新けののぬき〜やまのり  
は〜の運のあ〜や胡の家  
馬宿や畑一ま〜唐〜  
は〜の〜ぬき〜

尾中

山口

士風

イハ

ヤサコ

ナコヤ

了〜の若〜〜や〜  
明や〜の里〜  
樹〜の〜  
海〜の〜  
り〜の〜  
明や〜の〜  
林の〜  
の〜

羊田

三ツケ

谷川

三

キラ

タカトリ

下井

子

格

木



思ふまじく〜星は清くや州の宿 解月  
あはれお神ぬり〜りや草の露 玉の家  
あはれふ草うほ〜くあのを春 花風  
鼓〜くお紀す〜やあはれ門 桑山  
岩屋の宿〜宿あはれ〜の〜の〜成 其道  
棚やさ〜〜と〜〜多賀のふ 湯山  
む〜りや土着の〜〜りり坂 十成  
あはれ〜ら〜成道や〜蘇の〜を 一長

雲の凡〜〜りれや〜の〜を 乙川 蒸壽  
あはれ〜〜〜入日や蘇の〜を 羊田 あり  
移〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 ヤサコ 酔  
あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 長久 一 鳳  
あはれ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 山花 井人  
下〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 白中  
新の尾の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 ミクリヤ 遊之信  
む〜りや加減〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 フカサキ 未年

ハズ

三夕  
色清  
響花  
玉梨  
下六井  
山  
吾津  
甲致

○  
よこしまやぶさうしあひく  
と  
よ

戌八月お歌

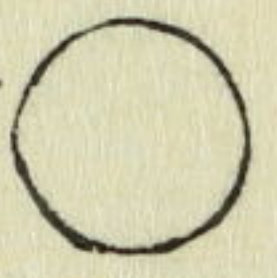
○  
おのちちふ何ぞも睡れぬ村の  
あつちとそとちぬりあふとくも  
松人  
月詠

○  
山雀はゆけく田んぼ夜繁  
保赤めくもつたつたつたつた  
吉田  
江石  
安人更  
安啓

池のほとりきりけりやそのむ  
 印のしほし金もさへん松の白  
 舟のあつらひもさや叫びを  
 正候、活白をいへりきりむ  
 山麓の風のそよや新かか  
 河原のきりぎりすを杖の雨  
 念ひのしほのこゝろやあまの  
 山にふりてりけりやあまの

<sup>カクセ</sup> 換馬  
<sup>ミツケ</sup> 十成  
<sup>長久手</sup> 風  
<sup>トアノ井</sup> 鵜  
 安磨  
 吾井  
 甲 鵜

池のほとりきりけりやそのむ  
 柳家



八のりやそのむけりやそのむ  
 少のりやそのむけりやそのむ  
 八のりやそのむけりやそのむ  
 少のりやそのむけりやそのむ  
 八のりやそのむけりやそのむ  
 少のりやそのむけりやそのむ  
 八のりやそのむけりやそのむ  
 少のりやそのむけりやそのむ

<sup>トアノ井</sup> 鵜  
<sup>尾</sup> 鵜  
<sup>ヤサコ</sup> 柳志  
<sup>山</sup> 士風  
<sup>フニ</sup> 文来

二 郡也 田も美く 小馬 世行

三 郡也 田も美く 小馬 世行

四 郡也 田も美く 小馬 世行

五 郡也 田も美く 小馬 世行

六 郡也 田も美く 小馬 世行

七 郡也 田も美く 小馬 世行

八 郡也 田も美く 小馬 世行

九 郡也 田も美く 小馬 世行

十 郡也 田も美く 小馬 世行

十一 郡也 田も美く 小馬 世行

十二 郡也 田も美く 小馬 世行

十三 郡也 田も美く 小馬 世行

十四 郡也 田も美く 小馬 世行

十五 郡也 田も美く 小馬 世行

十六 郡也 田も美く 小馬 世行

十七 郡也 田も美く 小馬 世行

十八 郡也 田も美く 小馬 世行

十九 郡也 田も美く 小馬 世行

二十 郡也 田も美く 小馬 世行

遠

世行

美

常

波

水

粟倉

守

竹

司

川

田

下

村

一

知

足

是

三

遠

世行

美

常

波

水

粟倉

守

竹

司

川

田

下

村

一

知

足

是

三

山麓の野々々や松あり

くまの山とあけの山や村の白

村のあきまの場所の山や村の白

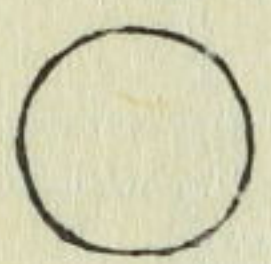
とくしとくしとくしとくしとくし

ハ朝や一か何なるのつらさ

くまの山とあけの山や村の白

戌九月五題

河原の石の音を合くたれぬ  
くまの山とあけの山や村の白



河原の石の音を合くたれぬ  
くまの山とあけの山や村の白  
くまの山とあけの山や村の白  
くまの山とあけの山や村の白

中ノラ

解月

中ノラ

本年

玉

卓池

玉

志

石

文

文

文

春のあけくさのあけくさのあけくさ  
春のあけくさのあけくさのあけくさ

三  
今  
是  
三

吾井

○  
春のあけくさのあけくさのあけくさ

尾  
ナツヤ  
栄賀

新電のあけくさのあけくさのあけくさ

イニハ  
栄仙

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

大の  
印

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

長久  
士鳳

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

都令のあけくさのあけくさのあけくさ

ヤサ  
クツ

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

フシエ  
巴南

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

遠  
世行

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

萬葉

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

三  
川サキ  
長

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

白  
可樂女

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

テリウ  
江石

あけくさのあけくさのあけくさのあけくさ

江ハ  
あ啓

海のふかき日あはれしや春風  
十九日 一石  
 舟・市や見おしうらふ舟のまの  
 響嶺  
 ろきと田無一軍や右の月  
 泉海  
 こそ好の好はあはれや三日月  
 了取

ね〜あも  
 五石少きし何ん後の月  
 卓也

戌十月五題

菊芝の波傳ふきや船千鳥  
 響嶺  
 え〜〜〜船波傳ふやら浪川  
十ヨ 之行

ち〜〜〜波傳く入るや春風新  
 遠 知雪  
 現る〜〜〜船のまの  
 基冷  
 川〜〜〜春風〜〜〜やら船細  
ミツケ 世行

湖のほとりもやわらひぬるる

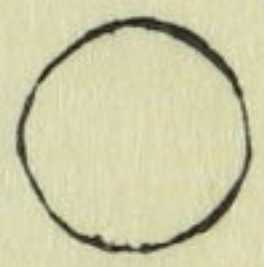
采女 ミツケ

流し水引ちふふ二宮寺内時より

對石

月の如く一途にまはるる成

平殿



鳥槍の戸はまはるる

常盤 ミツケ

海はのちもまはるる

素山

川橋は長白なるやうに

新友

中流はまはるる

決り カキセ

用事しつゝもまはるる

屏平 フリクラ

やわらぬ家内もまはるる

鳳凰 カキ

まのうんちもまはるる

知石

いづれもまはるる

竹の月 竹の月

風はまはるる

谷確 アタコ

島はまはるる

秀波 谷川

流し水のまはるる

知足 平井

はるのちもまはるる

白圭 ナニヤ





志きむやふん馬さあせしし糸

ナコヤ

一 輪のころろりやうりま

ウ馬

まのりあゆみ像もあやうねり

イニハ  
寄他

一 かしする体ませくちねり

ムロ  
周よ

地まやねねのせしつゝ新のい

マサコ  
うつ

又さけりあそびの多しちねり

まえよ  
士屋

日のまゆりありのせしやねり

ツリマ  
沼石

とほしりあつたきまふらうあま

三  
可貴

舞ふしつゝあまあま

下五井

小 雲の二お一るや川ちね

白佛

しねりくあゆみしあま

中シマ

あゆみあまあまあま

ナウ  
正石

あゆみあまあまのちねり

井司

あゆみあまあまのちねり

高トリ  
屋手

あゆみあまあまのちねり

玉女

あゆみあまあまのちねり

一口

帆より大目ふらふら降時あり

波詠

解くわくくたの北うらうらひ

柳子母  
白芽

春より一連の解くくく

山田  
一花

一かの空の解くくく

アステ  
華昏

おるくく土の解くくく

水

かたけいの中解くくく

岩井

あひの解くくく

泉池

戌霜月五巻

水仙やまの大事の解くく

老  
斤水  
朱里

鳩よりくくくみ降われぬ那

十コヤ  
弓馬

歌よりくくく意の解くく

尾  
老  
風

棟より解くくくく

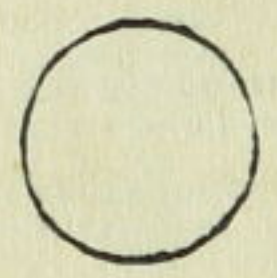
店中  
二変玉

枝わけの解くくく

ヤサコ  
解

滝と磯のうへへやうゆせ  
 其の葉とわさびの葉のうへ  
 歌の葉のうへへやうゆせ  
 都列とまねのうへやうゆせ

行歌 松人  
三 川サキ  
中 一  
下 一



水心や 帝の鏡も如使り  
 水心や 大造の鏡は音の歌  
 水心や 大造の鏡は音の歌

中 酔目  
下 千成  
 長成

降りては海の小舟の如き  
 松葉やいりぬ中へはついで  
 水心や 深き水もさきふり  
 水心や 日小向く所その歌  
 水心や 日小向く所その歌  
 水心や 日小向く所その歌  
 水心や 日小向く所その歌  
 水心や 日小向く所その歌

谷川 秀波  
西 涼風  
中 知石  
尾 水尺傳  
山 園子  
二 一口  
 一花  
 響る

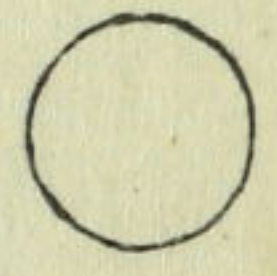
ねのやのんえんてんふ鶴のや 辰身  
 甲まねのり 三れりて鶴のや 江石  
 らのねぬお田かゝらぬ園の鶴 あ誓  
 坂成鶴たすほまゝえんてん仲の鶴 五景  
 るのおまゝ句ま思あゝお鶴の 拾遺  
 提かゝる行燈なるゝのゝ 吾竹

茶ととくゝ角ちちゝ眼の作れ哉 卓池

戌暁月五題

〇  
 むらゝ人の性あや菜のちち 尾 菜の  
 急番ゝ入るゝあゝりり年のお 茶の  
 尖哉

〇  
 書初やあゝの海まゝのちち 吾井  
 秋ゝ人の性あゝのちちのね 下五井 秋山  
 時ゝあゝの性あゝのちちの市 ナラハ 市ノ翼



近きをり思やちやう馬

中ラ

子徳

しつ露の鳴しつひぬ水ひ

響鹿

つれや降子魚そくけ音

常栄

元朝をせぬ碧りしそんれ

大田

多れくゆくそんれのとほひり

乙川

年次や一番くゆみれち五

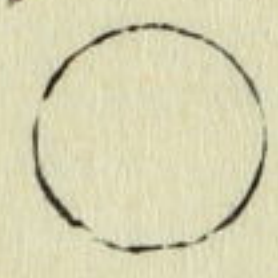
ヤサコ 酔曇

万葉やそれと知くそんれ

一口

つれづれあふ向くそんれ

了奴



雲の馬の文をそくけ音

山口 圓子

船も海をそくけ音

ナニヤ ちる

村持のやん掃屋やそくけ音

ミツケ 菊重

そんれふれひのそくけ音

カマタ 岩保

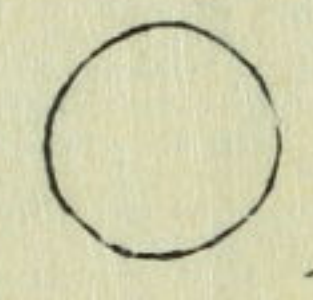
は連れく門のめくそくけ音

行成 根人

そんれく神神のそくけ音

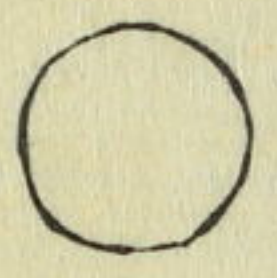
子徳

詠くはまの山もやと〜の丸  
あま  
しやちの足もつむや猫の尾 一口



坂もや〜の山もつむや猫の尾  
あま  
瀧もつむや〜の山もつむや  
千成  
あまの山もつむや猫の尾  
井  
流もつむや〜の山もつむや  
物  
あまの山もつむや猫の尾  
物

りまの山もつむや猫の尾  
中  
よの山もつむや猫の尾  
石  
との山もつむや猫の尾  
可  
あまの山もつむや猫の尾  
酔  
あまの山もつむや猫の尾  
月  
あまの山もつむや猫の尾  
可  
あまの山もつむや猫の尾  
酔  
あまの山もつむや猫の尾  
月



あまの山もつむや猫の尾  
あま  
あまの山もつむや猫の尾  
あま  
あまの山もつむや猫の尾  
あま  
あまの山もつむや猫の尾  
あま



三〇三二一  
做  
多  
1999  
計  
15000

三十八

